

県民クラブ

目で見る県勢

昭和42年



第3日曜日は「家庭の日」
明るい家庭

明るい家庭によい子が育つ。昭和41年4月から県内で実行に移された、毎月第3日曜日の「家庭の日」は、こうした主旨で提唱され、家族みんなで話しあい、楽しみあい、力をだしあう日です。
 明るい家庭づくりは、明るい社会づくりの基礎であり、人間尊重の基盤ともいえましょ



明るい茶の間は、明るい社会をつくる基礎

建設中の太閤山住宅団地

三大政策
 人間尊重
 国土美化
 日本海時代の開拓

三大原則
 平和県政
 山びこ県政
 計画県政

「交通安全を願う吉田富山県知事」



県民のみならずとともに、手をたずさえて進む富山県は、富山新港計画を中心に、新産業都市計画や地域開発計画、そして日本海と太平洋を結ぶ中部のベルト計画、北陸高速道路の建設など次々と着手し、北陸の雄として輝かしい歩みを続けています。他方、立山の観光も長野県と結ぶ道路に着手するなど、野に、山に、海に活発な動きを示しています。

県は、これらの計画実現を基盤に、昭和50年における富山県の望ましい姿をえがく、第三次富山県勢総合計画を立案し、豊かな住みよい県土づくりと心の開発という、県勢の進むべき方向と、県民の努力目標を明

らかにしました。この計画では、望まじき富山県民像を提唱し、人間尊重を重視しており、また県内外の地域計画の統一伸展などを特色としてあげ、総合計画と行政計画との2編に分けられ、次の9部門の構成で進められます。総論、経済総合、人間能力開発、水政、交通総合、農林水産業振興、商工業振興、生活環境整備、県民福祉向上。

これらの計画遂行は、県だけの力では実現できません。実現の原動力は県民自身であり、また利益を受けるものも県民各位にあります。県民ひとりひとりの日常生活をとおしての、理解と協力を念願しています。



生活にうるおいをもたせ、歴史を考えさせてくれる文化財の保護は、芸術文化の向上になります。(文化財に指定された菅沼の集落)



先住民の住居あと。大境洞くつ

軽い体操や歩くことなど、簡単にどこでも行なえる体力づくりに参加しよう。

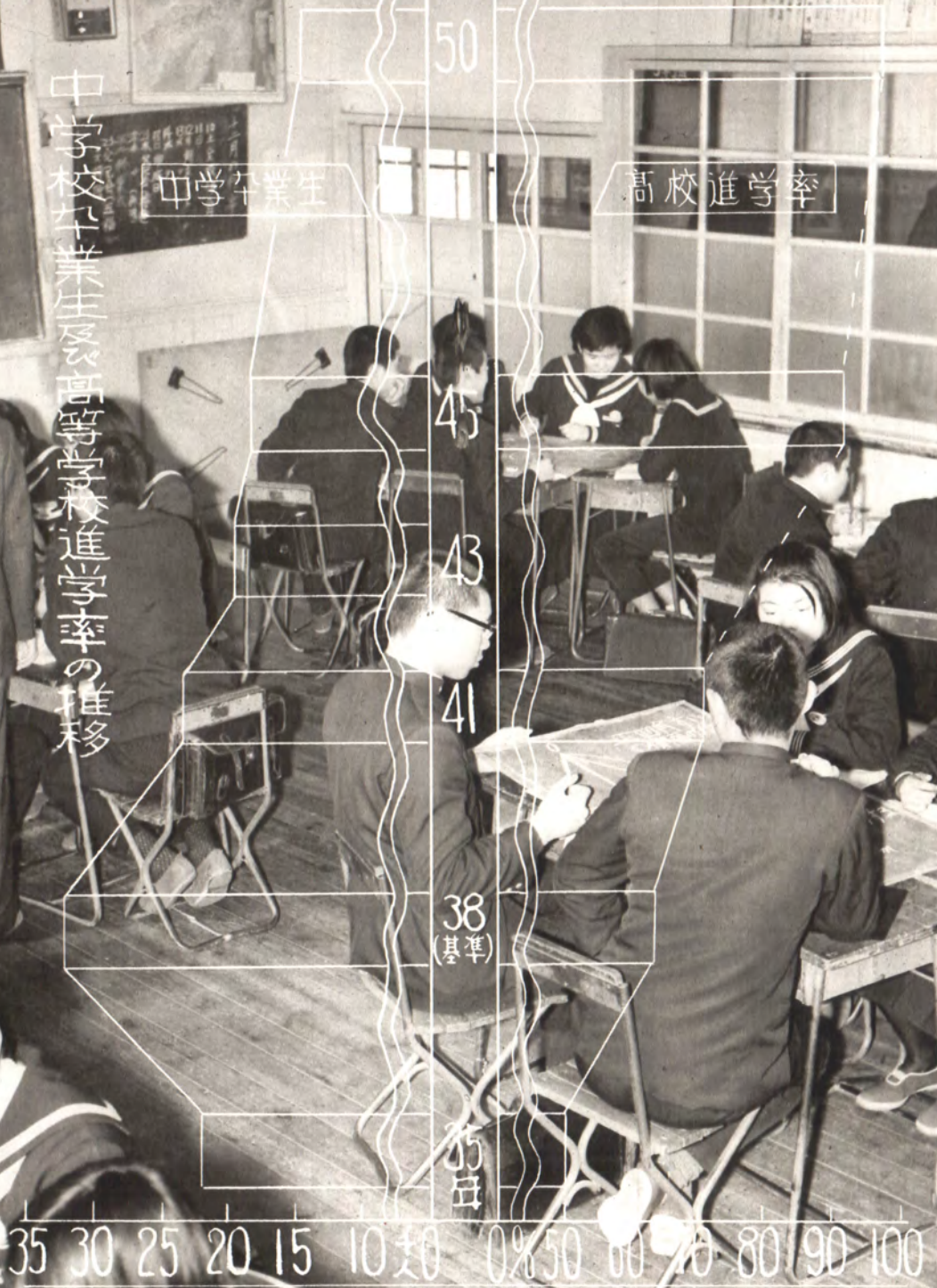
教育も 体力も そして根性もつくる



中学校卒業生及高等学校進学率の推移

中学校卒業生

高校進学率



中学校卒業者のすべてに高等教育を、そして個性と能力に合わせて専門的
との教育方針を定める。

これからの教育は、一人一人の適性と能力に応じて、個性をいかすものでなくてはなりません。県は第3次富山県勢総合計画でこれを「人間能力開発計画」とうたい、幼児、初等、中等、高等各教育コースのそれぞれの分野に、この基本方針を一貫して進めています。一方、芸術文化の向上、技能者の養成、明るい社会環境づくり、人づ

くり、そして健康な体力をつくる運動を展開して、これが産業基盤の礎を築くことを強調しています。また全般を通じて不足しているといわれる「根性」。殊に青少年の根性づくりに主眼をむけています。家庭でも、学校でもそして社会においても、県民全部で優秀な人間形成に努力いたしましょう。



北方地域で戦没された県人などの冥福を祈
「合掌の塔」を富士のすそのに建立。



精神の薄弱な方の自活の場「セーナー苑」は、
大沢野町で開設しました。(働く喜びを見出
すセーナー苑での一日)



早期発見が 成人病予防 第一条件

ガンなどを早期に発見して成人病をなくしようと、
成人病検診車「らいちょう」はきょうも出動。

楽しい社会を

県内には不幸にして身体のどこかに障害をもつ方や、
成人病を始め、幾多の病魔とたたかっている人がたくさん
おいでになります。私たちは、こうした方々をあたたかく
保護し、助けあい、一日も早くみんなで楽しい生活がで
きるような社会を築かねばなりません。一方こうした不
幸を招かないよう、家にあっても社会にあっても、日々
の生活の中でつねに保健衛生を考え、環境の整備をする
ことを忘れないようにいたしましょう。



身体に障害のある子供と、その親の心配を少
しでも解消しようという、母子通院訓練指導

冬山登山はまず「登山届」を出してから(富山県登山届出条例きまる)



ゼロに できる災害

することが



折り重なるように、押しつぶすように走る「車」
「車」、事故を起すのはこのうちのどれか？



「酒のみ運転はやめましょう」「横断歩道を渡りましょう」「みんなで交通事故をなくしましょう」(毎月10日の交通事故をなくする日)



火事ほど不注意によるものはありません。みんなで守ろう「火の用心」。(毎月15日は無火災日)

交通戦争から歩行者を守る「横断歩道橋」



「幼児の群にダンプ突込む」「〇△山で遭難!! 絶望か!!」「石油コンロの不仕末、焼死体で発見」などなど。

こうした災害は全部人災であって、必ず防げる問題です。天災でさえ防ごうという時代です。人災など「ゼロ」にして、安心して生活ができるよう、みんなで努力いたしましょう。

スローガン

交通事故をなくす

人は右、車は左、交通ルールを守りましょう

山岳遭難防止

危険に向うより、引きかえす勇氣

火災予防

烧かない注意、燃えない工夫



雪宮の使い、天然記念物「ほたるいか」を見る観光客



縄文文化をしのぶ氷見海岸と蛇ヶ島



安土、桃山時代の遺産、高岡の曳山



日本的情緒豊かな民謡、越中おわら節



世界に誇る観光地「立山」は、郷土の象徴であるとともに、忍耐と深い愛情を持つ素晴らしい県人を育ててくれています。

県土を美しく

東方に立山連峰を仰ぎ、北方に日本海を眺める美しい県土富山県は、その歴史は古く縄文時代に始まるといわれています。この古い歴史と伝統を誇る郷土には幾多の輝かしい文化と産業が生まれ、現代に生きる私たちの生活に、限りない希望を与えてくれています。私たちはこの遺産を、美しい県土とともに子孫に引継ぐよう努力しなければなりません。

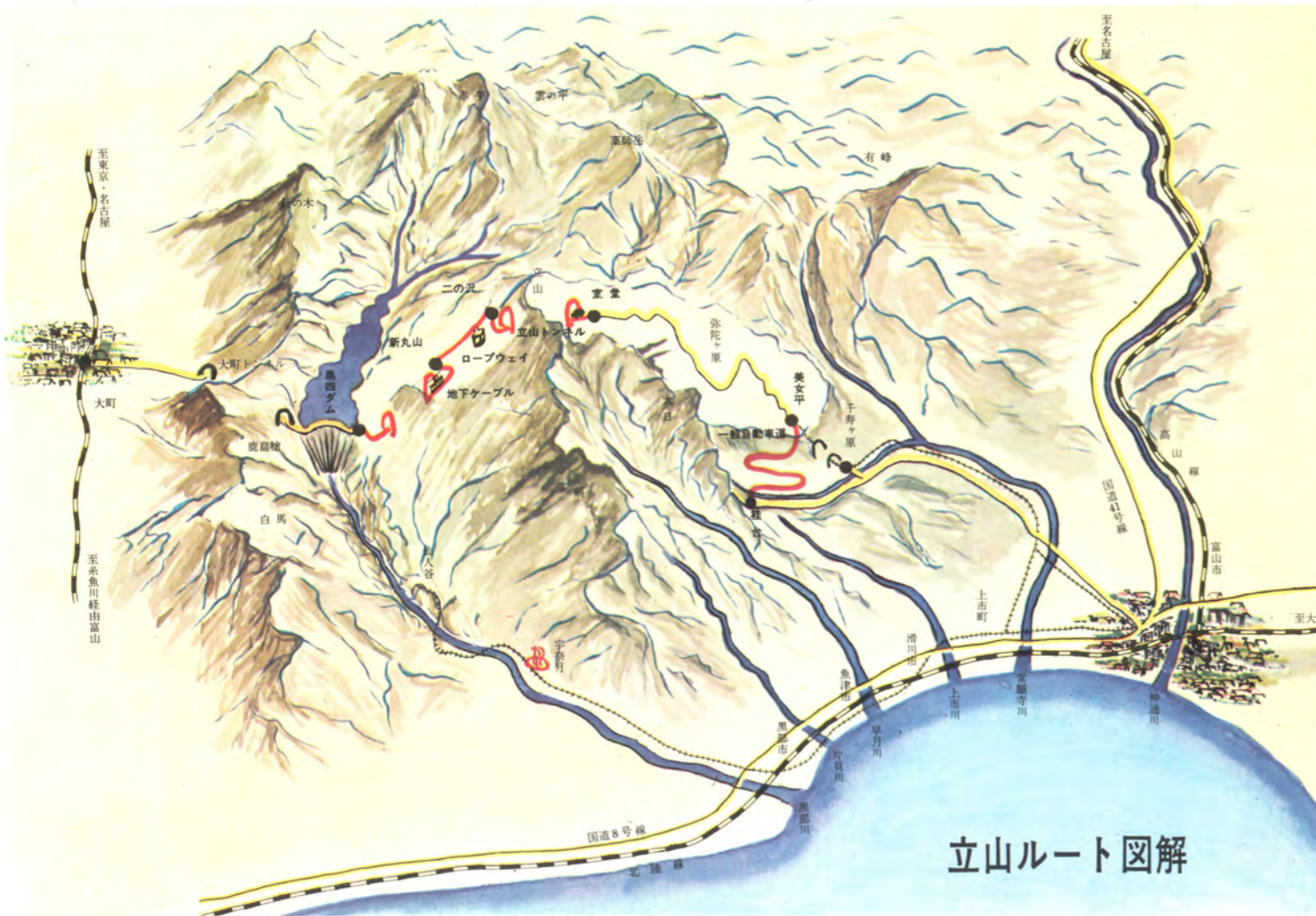
哀調せつせつ、平家をしのぶ安曇節





↑ 新港ふ頭の造成や、しゅんせつ作業は急ピッチ。
 ← 富山港・伏木港を両翼に、県勢を荷負う日が近い富山新港(国定公園の呼び声高い、二上山から)
 ↓ いよいよ今秋開港の運びまでにこぎつけた「富山新港」

完成目標43年9月、世紀の工事「立山ルート」の建設は進む。



県民の夢、完成近し

富山県民のバラ色の夢、それは住みよい豊かな県土の造成であります。

富山・高岡新産業都市計画の中心課題である「富山新港」。そして日本人が、世界の人が注目している日本の屋根、北アルプスをぶち抜き観光道路をつくるという、「立山ルート」は、着々と建設が進められ、完成間近しの感を深めてきました。





山村農業の近代化は、パイロット事業から。(こんな斜面に、こんな美しい広い田が……)

昭和41年9月「県の木」としてタテヤマスギが決まりました。



農業ので完成

近代化は基盤整備から。(農業構造改善事業計画した大きな田んぼと、働くブルドーザー)

2割増収5割省力

「農は国の基」という言葉があります。ところが日本は現在、自由陣営の中では、くっ指の農産物輸入国に転落しています。幸い富山県は農家の努力で、反収も所得も全国平均を大きく上回っていますが、更に農業経済の向上をと「2割増収、5割省力」のスローガンをかけております。殊に基盤の整備、構造改善、流通の合理化、価格の安定、金融の拡充、環境の整備などに重点をおき、生産の増大をはかり、一方、農山漁村の若い指導者の養成にも力を尽しています。

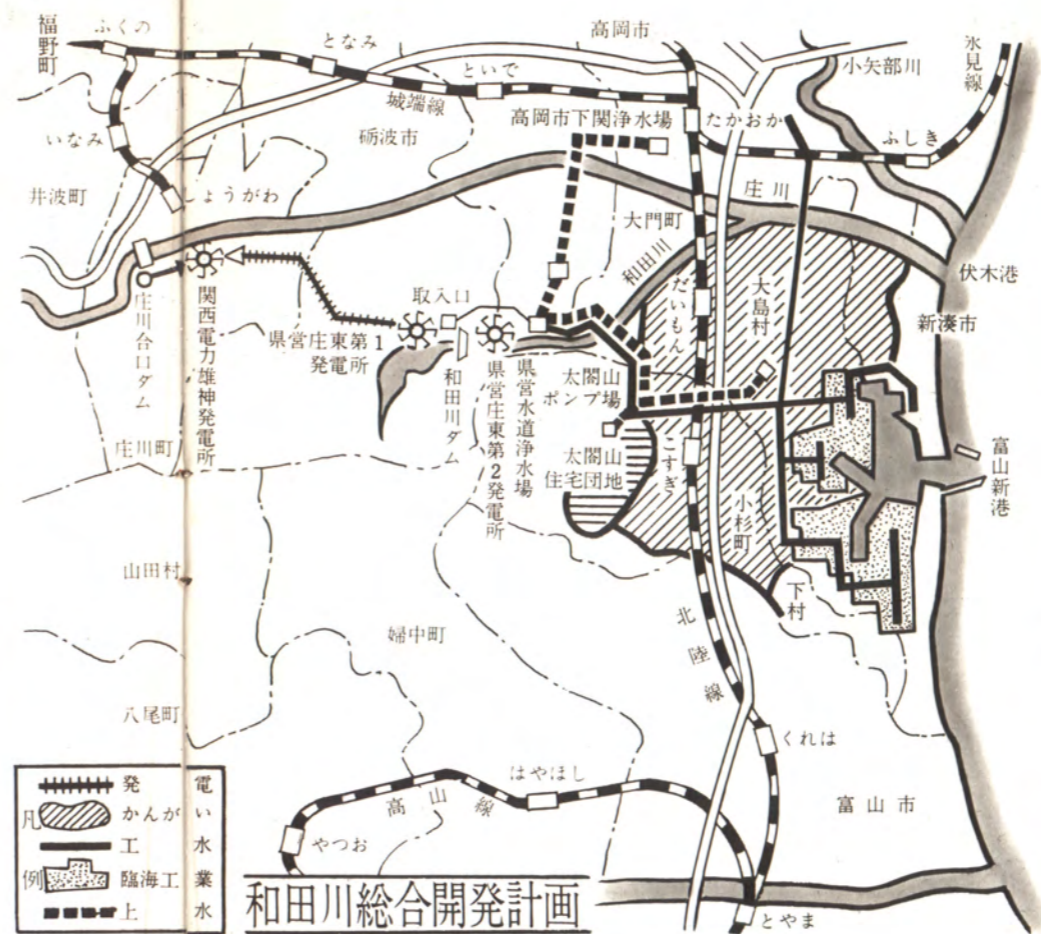


数多い暴れ川を持つ富山県の宿命を、砂防えんていはきょうも喰い止めてくれています。

安住の地築く

安住の地、それは県民の願いです。日本海は県土を削り、地すべり、洪水は豊沃な田畑を荒廃していきます。祖先が幾多の試練に耐えて築いたこの郷土を、より近代化して子孫に伝承していくことは、現代に生きるものの使命であります。幸い県民の努力で土木工事は順調に進み、県土は大きく近代化しましたが、更に河川の開発を始め、道路の整備、護岸、砂防、そして住の問題等々解決して、一日も早く安住の地としなければなりません。

日本海の無法者といわれる高波とたたかうテトラポット群



電気を起し、飲料用水、工業用水を射水平野と新港臨海工業地帯に送る「和田川総合開発計画」の中心「和田川ダム」の建設。

産業を運び、生活を運ぶ道路。道路の整備は現代の急務（天下の難所、天田峠で「くりからバイパス」着工）



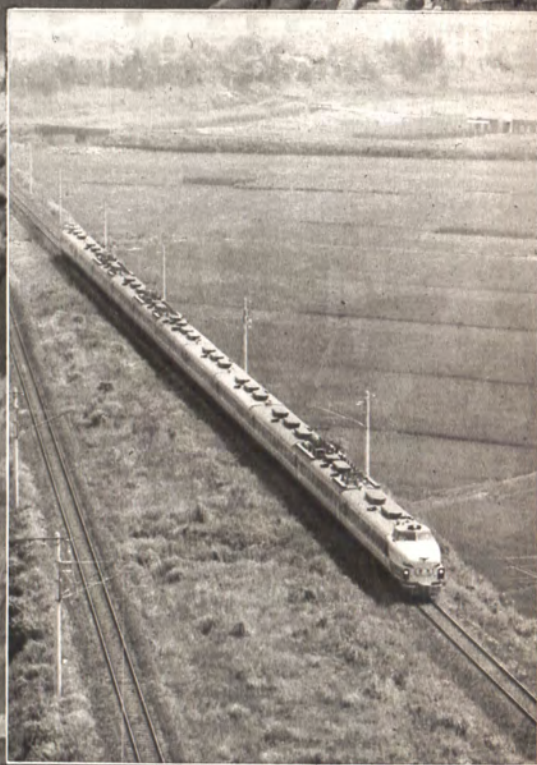
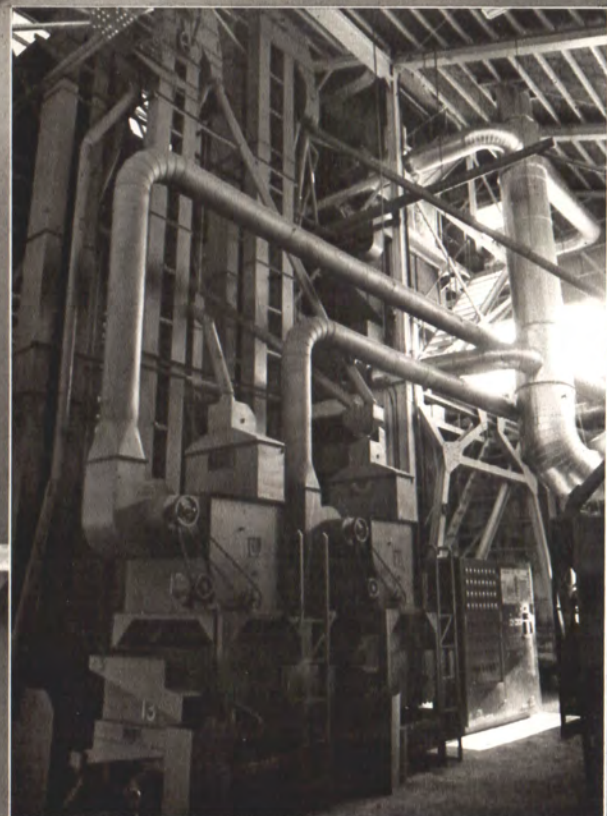
伸展する産業

豊富な電力と労働力をバックに、産物は県外へ、そして海外へ

第三次富山県勢総合計画という県民の新しいビジョンは、すでに実行の段階に入り着々とすすめられています。

対岸貿易のかけ橋として、日ソ貿易見本市を開催するなど、産業県富山の姿は今や国際的に大きく伸びつつあります。

機械化されてゆく近代農業は、すべての富山県産業を支えています。(米の貯蔵庫、カントリー・エレベーター)



鉄道や道路網の整備は経済発展のかけ橋。(複線電化した北陸線)



中部経済との交流をめざす富山県の足がかり、「富山県名古屋物産観光あっせん所」(41年6月開所)



対岸貿易は富山県経済のカギ、その夢をたくして開かれた「日ソ貿易見本市」が両国で開催(日本側40年5月県民会館で「左」、ソ連側41年6月ハバロフスクで「右」)





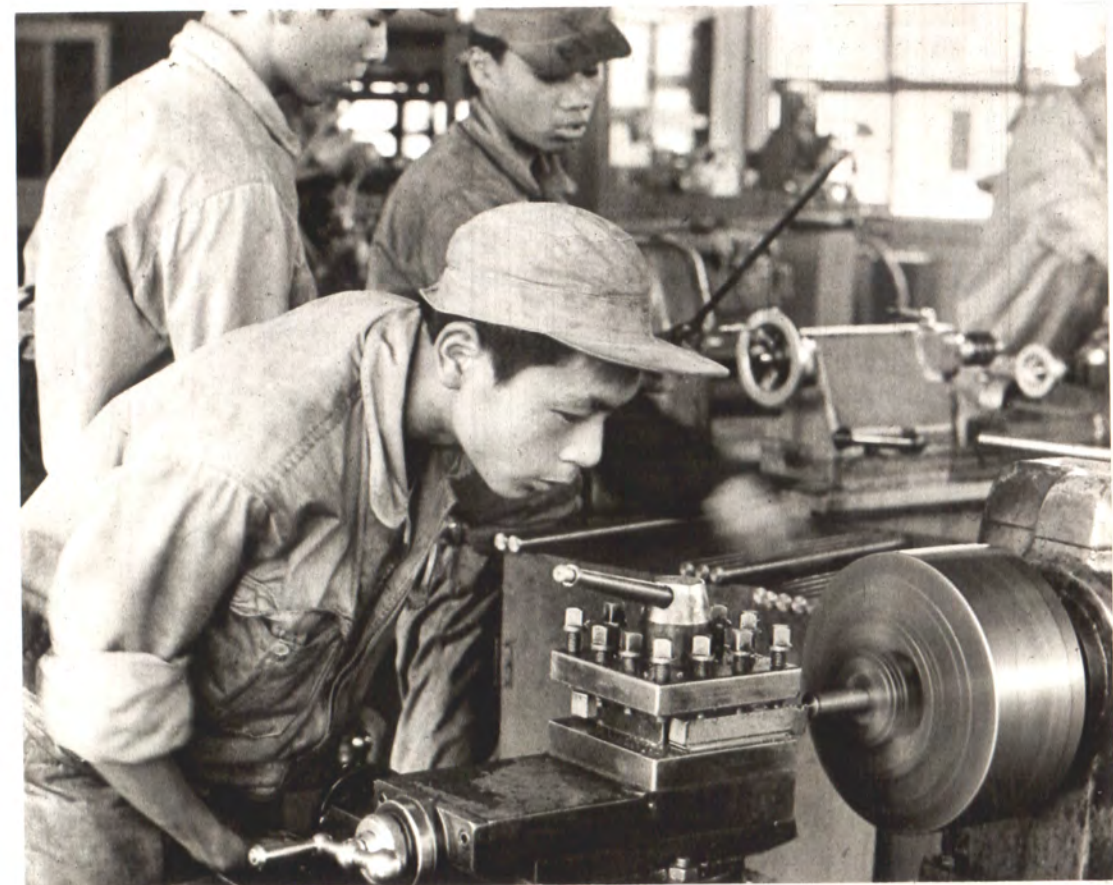
対岸貿易は富山県経済発展の宿願 (大型船の積荷に 忙しい港)

日本海沿岸地帯屈指の商工業県富山には、忍苦の精神と堅実な気風と、深い愛情をもつ県民があり、それはまた豊富な労働力となっています。

このすばらしい県民は、中部経済圏の確立、日本海沿岸地帯の振興、

対岸貿易の拡大という三つの大きな流れと取組み、ますます技能を身につけ、各般の産業を近代化し高度化して、日本海時代の開拓をめざして、力強くきょうも前進を続けているのです。

日本海時代の開拓めざして



新しい技術の導入と技能教育は、産業発展の基盤 (高等技能学校の生徒たち)

近代化と高度化をめざす中小企業



望ましき富山県民像

5つの願い



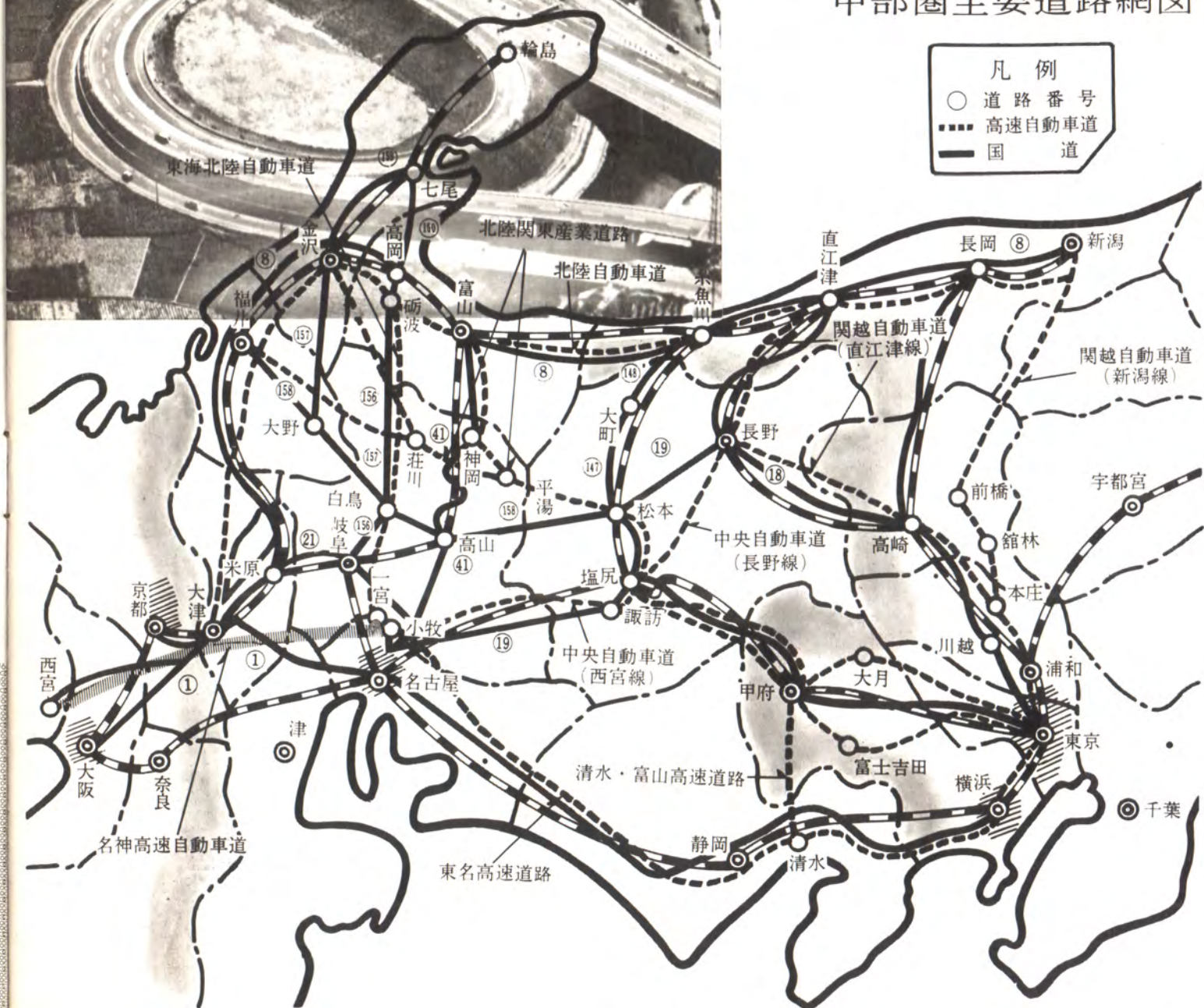
県内にもこのような道路のつく日が近い
(名神高速自動車道インターチェンジ)

中部の発展は まず道路の整備から

「中部は一つ」という合言葉は、ついに「中部圏開発整備法」の制定となりました。私たちの住む日本の中心、中部圏には中京地区という、まさに青年期を迎えた大工業地帯があります。そして日本海側には北陸の雄としての工業県富山があります。この両工業地帯を結ぶ道路交通網の整備は、中部圏確立のカギであり、急務です。

中部圏主要道路網図

凡例	
○	道路番号
---	高速自動車道
—	国道



1. わが富山県民は郷土の良い伝統を尊び自らの長短を反省し風土と人情を美しくするこれがわれらの願いである

2. わが富山県民は広い世界的見識深い道徳的人間愛清い宗教的情操を育てよう努力するこれがわれらの願いである

4. わが富山県民は義務教育をおもんじ知性と徳性を啓発し人格の自己形成につとめるこれがわれらの願いである

5. わが富山県民は礼節と真情ある言動で家庭や社会の明朗な人間関係を整えるこれがわれらの願いである

3. わが富山県民は骨身惜しまぬ勤労の喜びと強い責任感をもち健康で職業を守り産業を進めるこれがわれらの願いである

「望ましき富山県民像」は、富山県民のみんなが、いきいきとした自己を形成するために、自らの願いを強く心にうちたて、互いに理解しあい、敬愛しあうめやすとして提唱されました。この5つの願いを、みんなで考え各自の胸の中で健やかに育て、実践していただければと望んでいます。



富山県

今秋、開港をめざす富山新港の建設は、港のしゅんせつ、ふ頭の造成など、急ピッチで進んでいます。

表紙説明

巨大なパイプ。吐きだされる泥水。これはいま、富山新港建設という時代の脚光を浴びた放生津潟の新しい姿です。しゅんせつ船が掘り出し運びだす泥土は、新港の背後にある強湿田地帯を埋立て、臨海工業地を造成していきます。

富山県民グラフ

昭和42年1月1日発行

編集人 富山県
発行人 富山県
印刷 中越印刷製紙株式会社